

地域・保護者の学校運営への参加に おける学校評価の在り方

札幌市立有明小学校

I はじめに

よりよい教育活動を
創造するために

1 本校における学校評価のねらい

本校では、教育活動や学校運営について、その目指すべき目標を設定し、達成に向けた手だてが適切なものか、またその達成状況が望ましいものかを評価することで、学校として組織的・継続的な改善を推進していくことを大きなねらいとして、学校評価に取り組んでいる。

学校評価の状況や経過、結果を広く公表・説明することで、適切な説明責任を果たし、保護者や地域住民から理解を得ることで、学校・家庭・地域が連携協力して、特認入学指定校としての学校づくりを進めることを目指している。

目に見える改善が
評価の必要感へ



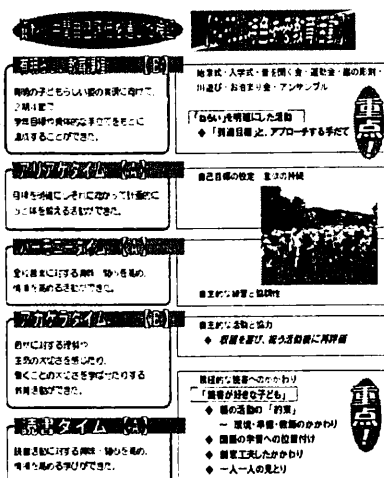
【新しい取組・読み聞かせ】

2 昨年度の学校評価の結果をもとにした改善点

本校では、評価を受けての改善が速やかなものになるように配慮している。評価活動を推進していくことが、教育活動の充実につながることを認識することができるよう、その改善内容を具体的に表現するようにしている。

- ◆ 安全に対する取組…登下校時（市営バス・地下鉄の利用）の引率・巡回
- ◆ 特色ある活動の内容
 - ・体力づくり活動…クロスカントリーコースの整備
 - ・全校音楽活動…管楽器の整備計画 合唱への取組 年間活動計画の再編
 - ・飼育栽培活動…活動に対する意欲化 指導者の招聘
- ◆ 読書活動の取組…朝の活動の日課 P T A活動への位置付け

II 本校の学校評価システム



【重点項目を焦点化】

1 自己評価の充実を図る組織体制

学校評価は、日常的な活動の中に返ることが重要だと考えている。そのため改善の手だてを各学年、校務における各部が検討・提示し、試行を通して速やかに成果を検証することができるような体制をとっている。

2 学校関係者評価の円滑な実施に向けた取組

本校では、後述する学校関係者評価委員会を中心に、広く、様々な視点で評価活動できる体制の整備に取り組んでいる。共通の見地で評価にあたることができるよう、年度の重点項目について、その視点やねらい、活動の実際を文書化し、配付するようにしている。

Ⅲ 学校評価の一年間の流れ

		自己評価			学校関係者評価	
		学校(教職員)	児童	地域・保護者	学校関係者評価委員会	
4	I 節	P/学校経営方針・重点の確認 P/学年経営方針・重点の決定 ◆学習参観懇談会① ◆家庭訪問	知能検査 学力検査 全国学力学習状況調査	PTA総会	学校関係者 評価委員依頼 情報の提供 日常点検 提示	評価
		◆学習参観懇談会②<全校全教室> ◇運動会 C/I節自己評価	取組を振り返って (全校一斉掲示)	PTA運営委員会① 区健全育成委員会		
6	II 節	◆学習参観懇談会③ 学びの支援全体会①	新体力テスト(全8種目)	スクールゾーン 実行委員会	検討 有明小学校を語る会① 意見	
7		◆個人懇談会① ◇児童集会：夏フェスティバル		PTA運営委員会②	周知 情報の提供	
8		◇全校お泊まり会				日常点検
9		◆学習参観懇談会④ ◇クロスカントリー記録会 ◆前期通知表作成 C/二節自己評価	新体力テスト追試 前期の振り返り	特認4校交流会		日常点検
10	III 節	C/教職員中間アンケート 学びの支援全体会② ◇学習発表会	児童アンケート 取組を振り返って (全校一斉掲示)	保護者アンケート PTA運営委員会③	報告	評価
11		◆学習参観懇談会⑤<土曜学校公開> ◇児童集会：感謝の集い	市いじめに関する調査	区P役員 交流会	周知 検討 有明小学校を語る会② 意見	
12		◆個人懇談会② ◇アンサンブル発表会 CA/子どもの育ちを語る会① C/III節自己評価		養護学校地域学習連絡会 PTA運営委員会④	情報の提供	日常点検
1	IV 節	C/教職員年度末アンケート AP/次年度学校経営方針案提示			報告 提示	評価
2		◆学習参観懇談会⑥ ◆新入学保護者説明会 ◇クロスカントリースキー記録会 ◇児童集会：冬フェスティバル AP/次年度学校経営方針案検討 A/学校評価全体会 CA/子どもの育ちを語る会②			周知 検討 有明小学校を語る会③ 意見	情報の提供 日常点検
		◆学年末懇談会 ◆学校教育説明会 ◇児童集会：お別れ集会 ◇卒業証書授与式 ◆後期通知表作成 C/IV節自己評価 P/次年度学校経営方針案決定	後期の振り返り 進級・進学に向けて (全校文集作成)	PTA運営委員会⑤	報告	次年度学校関係者 評価委員選出 報告

P/PLAN【計画】 C/CHECK【評価】 A/ACTION【改善】
◇学校評価の日常的な点検を行う主な学校行事等 ◆学校評価の情報を交流する主な機会

IV 学校評価の方法

1 自己評価

(1) 項目の設定

シャープでシンプルな項目の設定を

平成19年度まで、本校では10領域27項目についての学校評価を実施にしていた。学校経営にかかわる内容について網羅的な評価を実施していた。しかし、平成20年度からは、学校経営方針や重点にかかわる内容に焦点化し、5領域16項目の設定で実施している。(※資料1参照)

(2) 外部アンケートの実施

小規模学校のよさや特性を活かして

小規模学校である本校は、教職員・児童・保護者(家庭数)が少ないため、アンケートの実施に伴う集計作業は比較的スムーズである。4段階の評定だけでなく、自由記述の表記もすべて文書化して集約している。

また、特認入学指定校の特性上、各居住区の中学校に進学することから、卒業後に感じる本校への想いや意見を集約し、学校経営に反映させるために、卒業生・保護者アンケートも併せて行っている。

2 学校関係者評価

(1) 学校関係者評価委員の構成と役割

平成18年度に設立
有明小学校を語る会

今年度、本校では5名の学校評議員の他、主任児童委員、清田区地域振興課職員、PTAの前会長・現会長、卒業生でもある地域住民及び教職員4名の計14名で構成している。



【年に3回 区民センターにて開催】

年3回の評価委員会(有明小学校を語る会)を実施している。

- <第1回:6月> ◆学校経営方針と重点の周知
◆学校評価の年間計画
◆観察・点検の機会となる学校行事などの案内
- <第2回:10月> ◆中間評価の結果考察
◆後期に向けての改善案の検討
- <第3回:2月> ◆年度末自己評価の検証
◆次年度学校経営方針(案)の検討

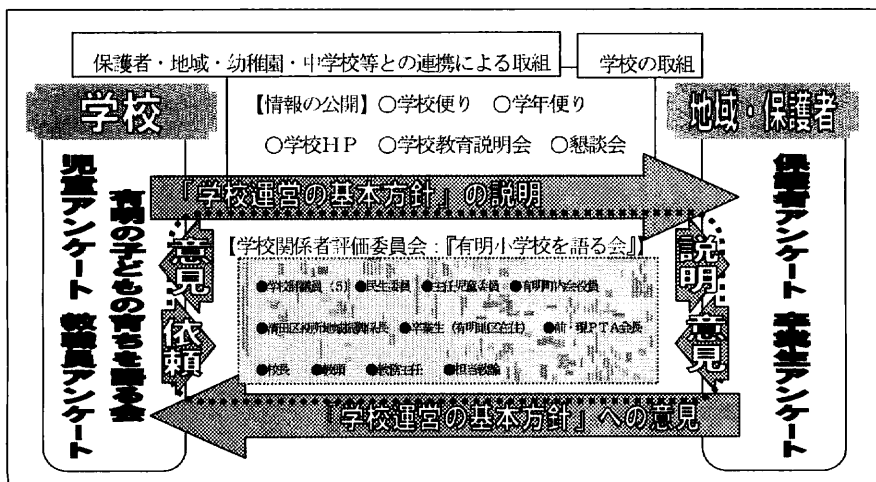
委員には、評価委員会への出席ばかりではなく、学校行事や日常の取組に参加・参画していただき、児童の育ちの姿、運営の様子を観察する機会にするよう、計画的に依頼している。

また、保護者や地域住民、関係機関などに、学校の活動の様子を広く伝える、スポークスマン的な役割を担っていただいている。

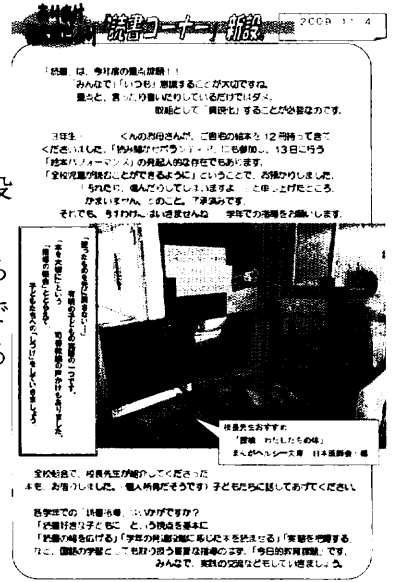
(2) 具体的・実質的な評価と するための手だて

実態に即した、実質的な評価をしていただくためには、取組のねらいや課題、さらには実態を正しく理解してもらう必要がある。情報を細かく提供し、発信することで、評価するための材料が増え、より多面的な視点をもつことができると考えている。

資料は、改めて作成するのではなく、校内で教職員が使ってい



様々な立場で、活動に積極的に参加・参画



評価委員会の役割や意義を広く伝える

るものを一部改訂して使用し、負担を少なくすることで、より日常的なものにしようとしている。

(3) 評価委員会がもつ役割や意義の周知
 学校評価における「有明小学校を語る会」の役割を家庭や地域に周知させることは重要である。学校便りやホームページで広報することはもちろんのこと、PTA委員に取材を依頼し、広報紙で特集記事を組むなど、少しでも身近な存在となるよう配慮している。

V 評価結果の公表

1 公表の方法

本校では、学校便りと学校ホームページで評価結果を公表している。また、学年での懇談会や年度末の学校教育説明会でも、その内容に触れることにしている。

教職員の評価に対する意識の向上に

2 公表の効果

懇談会や学校教育説明会で話題にすることで、保護者はもちろんのこと、教職員一人一人が学校評価を改めて見つめ直し、理解を深めることができています。実態を正しく把握し、改善のための手だてを共に具体的に考えることで、協力して学校づくりを推進している意識が高まってきていると考えている。

VI 成果と課題

学校評価が、評価のための評価として形骸化しないよう、シンプルで焦点化した内容となるように取り組んでいる。すぐに改善に着手できるものと、中期・長期的に時間をかける内容に分けて取り組むことで、目に見える形での学校改善となり、教職員の意欲向上を図ることができている。

学校経営方針の中に、それぞれの評価の観点を付記し、目標にせまるための手だてを検証する上でも分かりやすい構成とすることができた。1月の時点で、学校中間評価を反映させた次年度の学校経営方針案を提示、それをもとにした反省と計画を検討する年間の流れを確立することができた。評価の結果を次の計画に活かすサイクルが明確になったことで、次年度の計画立案にあたり、教職員が共通の課題意識のもとで討議することができるようになったことは、大きな成果といえる。



「札幌らしい特色ある学校教育の推進」を踏

まえつつ、本校の特色や課題を基に立案した学校経営方針案は、教職員のみならず、児童や保護者、地域住民や学校関係者の共有した成果と課題が反映された内容になりつつある。

【参考文献】

- ・「コミュニティースクール構想～学校を変革するために」 金子 郁容/岩波書店
- ・「コミュニティスクール新学校宣言」リーフレット 文部科学省
- ・「これからの学校評価」リーフレット 札幌市教育委員会
- ・『『生きる力』をはぐくむ学校教育の検証と改善』～小/中学校教育課程改善の手引き

↑ ↓ ⇒ 昨年度と比較して、増減が4ポイント以上の項目 課題として受け止める項目

学校課題	細目	内部評価												学校関係者評価					
		教職員(自己評価)				保護者				児童				地域・有明小学校を語る会					
		A十分達成、Bほぼ達成、Cやや達成、D達成していない				A強く思う、Bそう思う、Cあまり思わない、D全く思わない				A強く思う、Bそう思う、Cあまり思わない、D全く思わない									
評定	昨年度	中間	本年度	評定	昨年度	中間	本年度	評定	昨年度	中間	本年度	評定	昨年度	中間	本年度	評定			
特色ある教育活動	【有明らしい教育課程】	1	有明の子どものらしい姿の実現に向けて、2期4節で学年目標や具体的な手段をともに達成することができた。	85%	78%	84%	A	1	お子さんは、学校の活動や行事を通じて、成長している。	90%	87%	87%	A	1	学校の勉強や行事は楽しい。	89%	91%	A	
	【リアクティブタイム】	2	目標を明確にし、それに向かって計画的に心と体を鍛える活動ができた。	96%	98%	91%	↓	A	2	お子さんは、リアクティブタイムの活動を通して、体力がつけたり、粘り強く最後までがんばる気持ちが高まっています。	88%	87%	87%	A	2	クロスカントリーは、せいっぱいがんばった。	94%	93%	A
	【ハーモニータイム】	3	全校児童に対する興味・関心を高め、理解を高める活動ができた。	78%	88%	87%	↑	A	3	お子さんは、ハーモニータイムの活動を通して、音楽への興味・関心が高まったり、演奏することの喜びを感じたりしている。	88%	86%	86%	A	3	ハーモニータイムでは、音楽がよく分かり、楽しい。	88%	91%	A
	【アカゲラタイム】	4	自然に対する理解や生命の大切さを感じたり、働くことの大切さを学ばせたりする教育活動ができた。	58%	75%	76%	↑	B	4	お子さんは、アカゲラタイムを通して、自然や生命の大切さを感じたり、働くことの大切を学んでいっている。	81%	82%	82%	A	4	野菜や果物を育てるアカゲラタイムは楽しい。	90%	90%	A
	【読書タイム】	5	読書活動に対する興味・関心を高め、情緒を高める学びができた。		83%	93%		A	5	お子さんは、読書タイムを通して、本を読むことに楽しさを感じている。	81%			A	5	読書タイムで本を読むことは楽しい。		93%	A
学びづくり	【自ら学ぶ力(自立)】	6	確かな学力(基礎基本、思考力・判断力・表現力、学びへの関心・意欲・態度:学びの習慣化)を身に付けさせる授業を行うことができた。	67%	78%	76%	↑	B	6	お子さんは、学習に興味をもち、学力が定着している。	71%	73%	73%	B	6	学校の勉強は、よく分かる。	90%	88%	A
	【生活科・総合・英語活動等】	7	適切なテーマを設定し、カリキュラム開発に努め、児童の問題解決力を高める学習活動ができた。	60%	63%	78%	↑	B	7	お子さんは、自分の考えをはっきり話したり、自分から進んで活動したりすることができる。	63%	73%	73%	↑	7	自分の考えをすすんで話したり、自分からすすんで活動したりすることができる。	75%	84%	↑
	【少人数指導(18名)の工夫改善】	8	IT・少人数指導、GTとの協力など指導方法の工夫改善に努め、教育効果を高めることができた。	82%	88%	87%	↑	A	8	先生方は、大切なことをしっかりと教えてくれる。	95%	92%	92%		8	先生方は、大切なことをしっかりと教えてくれる。	95%	92%	
	【生活科・総合・英語活動等】	9	適切なテーマを設定し、カリキュラム開発に努め、児童の問題解決力を高める学習活動ができた。	60%	63%	78%	↑	B	9	先生方は、大切なことをしっかりと教えてくれる。	95%	92%	92%		9	先生方は、大切なことをしっかりと教えてくれる。	95%	92%	
生活づくり	【共に生きる心(共生)】	9	相手の気持ちに立って考え、協力して生活する態度を育てることができた。(挨拶・言葉づかい・やさしい心)	71%	70%	73%		B	9	お子さんは、正しい挨拶や言葉づかいができる。	64%	74%	74%	↑	10	正しいあいさつや言葉づかいができる。	82%	84%	A
	【道徳的実践力】	10	教育活動全般を通して、道徳的な心構えや実践力(基本的な規範意識や倫理観)を身に付けさせることができた。	78%	73%	78%		B	10	お子さんは、進んで仕事をしたり、きまりやルールを守ったりできる。	70%	77%	77%	↑	11	まわりの人にやさしい気持ちで接することができる。	85%	88%	A
	【児童理解と支援】	11	一人一人の子どもの内面や背景を理解しながら、職員全員で子どもを支える教育活動ができた。	93%	83%	87%	↓	A	11	学校は、全職員で児童一人一人に応じて熱心に指導している。	85%	81%	81%	↓	12	先生方は、自分のことをよく分かってくれている。	88%	88%	A
環境づくり	【地域・保護者との連携】	12	地域・保護者の協力を得ながら、信頼関係を築いて連携・協力の教育活動ができた。	85%	82%	86%		A	12	学校は、地域や家庭と連携・協力して教育活動に取り組んでいる。	83%	83%	83%		13	学校は、子どもたちの安全に対する取組をしている。	81%	81%	A
	【安全・安心】	13	安全な登下校・不審者対策・避難訓練など、子どもの安全確保について校内体制の整備と指導が適切にできた。	91%	82%	88%		A	13	学校は、子どもたちの安全に対する取組をしている。	81%	81%	81%		14	安心して生活できる。	91%	88%	A
	【学びの環境】	14	清掃・整理整頓などの環境整備や安全管理が十分に行われ、学習にふさわしい環境をつくることができた。	84%	84%	88%	↑	A	14	学校は、校舎内外の整理整頓に努め、学習にふさわしい環境づくりを行っている。	85%	83%	83%		15	管理・整頓とつながる。	78%	81%	A
職場づくり	【協働体制】	15	職員全員で共通理解を図り、連携・協力して効率的に業務を遂行できた。	85%	82%	86%		A	15	PTA活動や親子学習は、子どもたちの健全な成長に役立っている。	79%	78%	78%		16	先生方は、大切なことをしっかりと教えてくれる。	95%	92%	
	【快適な職場環境】	16	温かな人間関係を築き、切磋琢磨し合う雰囲気のある快適な職場づくりができた。	83%	82%	88%	↑	A	16	先生方は、大切なことをしっかりと教えてくれる。	95%	92%	92%		17	先生方は、大切なことをしっかりと教えてくれる。	95%	92%	